

| 科目分類 | 専門職の教育 | | | 開講学科 | 看護学科 |
|--|--|---------|----|------|-------|
| 科目番号 | 学年 | 担当セメスター | 区分 | 単位数 | 授業時間数 |
| 11073 | 3 | 前期 | 選択 | 2 | 30 |
| 授業科目名 (英文) | 養護概論 (Introduction to School Nursing) | | | | |
| 担当教員名 | 砂村京子 | | | | |
| 授業の概要及び到達目標 | | | | | |
| <p>○概要 本科目では、わが国における養護教諭の歴史と教育における学校保健の意義、養護の概念と養護教諭に必要な基礎的価値観、養護教諭の専門性と養護の機能、養護活動と保健室の特性及び学校保健活動について、講義及びレポートの発表により学習する。</p> <p>○目標 ①学校における養護教諭及び保健室の存在理由を述べることができる。 ②健康観、病気観、教育観、子ども観など基礎的な価値観について理解する。 ③養護活動を理解し計画することができる。 ④学校保健活動を理解し計画することができる。 ⑤指導案を作成し健康教育を行うことができる。</p> | | | | | |
| 準備学習等 | | | | | |
| <p>○第1回～第9回までは、事前配布資料を読んでおき、質問を考えて授業に臨むこと。 ○第10回以降はテキストの「新改訂 学校保健実務必携<第3次改訂版>」の各章を事前学習し、質問を考えて授業に臨むこと。 第10回：学校環境衛生……………第2編第3章 第11回：健康診断……………第2編第4章 第12回：健康観察と感染症……………第2編第7章 第8章 第13回：健康教育……………第3編第2章～第11章 第14回：健康教育……………同上 ○準備学習（予習復習）に必要な時間は60時間です。</p> | | | | | |
| 成績評価の方法 | 定期試験 80%、レポート 20%とする。 | | | | |
| テキスト | <p>「新改訂 学校保健実務必携<第3次改訂版>」（学校保健・安全実務研究会編著：第一法規）※ 「改訂 養護実習ハンドブック」（大谷尚子・中桐佐智子編著：東山書房）※ ○必要な資料を適宜配付する。</p> | | | | |
| 参考図書 | <p>「養護教諭のための養護学・序説」（大谷尚子：ジャパンマシニスト）※ 「改訂 養護教諭—その専門性と機能—」（小倉学：東山書房） 「改訂 学校保健」（徳山美智子・中桐佐智子・岡田可奈子編著：東山書房）※</p> | | | | |
| 備考 | <p>養護実習事前事後指導、養護実習、教職実践演習（養護教諭）の履修前提科目である。教員のオフィスアワーについては看護学科「オフィスアワー」の項を参照ください。 第10回～14回の発表、毎回の授業レポートについては添削後返却するので、以降の学修に活用してください。</p> | | | | |

授 業 計 画

〔養護教諭とは〕

- 第1回：オリエンテーション／養護教諭の仕事とは
第2回：養護ってなんだろう／人間の成長発達と養護

〔保健室とは〕

- 第3回：学校保健・養護教諭の歴史
第4回：理想の保健室の作成と発表（個人又はグループ）

〔養護とは〕

- 第5回：学校における養護の実際
 ゲストティーチャーによる講話を予定

〔保健教育と養護〕

- 第6回：教育課程と保健教育
第7回：学校保健の領域と構造／学校保健・学校安全計画
第8回：保健指導案の作成と発表（説明）

〔学校保健の意義〕

- 第9回：発達障害と養護教諭の役割（砂村）
 ゲストティーチャーによる講話を予定

〔学校保健活動の実際と養護〕

※以下の5回は、学生によるプレゼンテーションを取り入れた討議を中心に行う。

- 第10回：発表準備
第11回：学校環境衛生
第12回：健康診断／注意すべき疾病と異常
第13回：健康観察と感染症
第14回：健康教育（歯・性・エイズ・飲酒喫煙・薬物よりテーマを選択）
第15回：模擬授業

定期試験

【プレゼンテーション内容の事前相談】

※発表3週間前に教員との事前相談を設定し、1週間前の授業時にレジメを提出する。